（別紙１）

事　　業　　報　　告　　書

事　業　名	病弱児と家族等の孤立を防ぎ支援理解を深める情報発信事業
趣旨・目的	病弱児の生活空間は、狭い病室と院内学級のみであり、友達や兄弟など、同世代の子どもとふれあうことは一切出来ない環境にある。 闘病生活を改善するには、社会とのふれあいが必要であり、病弱児と学校や家庭等をつなぐツールとして、導入費用が安価で運用できるロボットが必要となる。そこで香川大学創造工学部の協力を得て運用機を制作するに至った。 またロボットを香川県内の教育機関・医療機関に普及することも含め、県内における病弱児支援の基盤づくりのシンポジウムを行う。 更に今年度から当団体は広く「子どもを育てる」分野にも進出する。人に思いを伝えることが出来る子どもに育つようにプレゼン＆発言力のワークショップを企画・実施するとともに、これら一連の広報活動で未来 ISSEY の認知を広めたいと考える。
事業実施の地域及び対象者	地域：香川県内 対象：慢性疾患を抱える子ども【病弱児】とご家族 医療・教育・福祉関係者・学生・一般（子どもを含む）
事業内容	①内容：ロボット運用機「つながロボット」５台の開発・広報・運用 場所：香川大学創造工学部 ・香川大学創造工学部教授と学生の制作に、未来 ISSEY スタッフがこれまでの「OriHime」運用経験を踏まえた意見交換で参加。 ・運用機広報のための動画・チラシの作成配布を行う。 ②内容：香川県における病弱児支援の基盤づくりのシンポジウム開催 場所：香川大学教育学部 オンライン開催併用 ・認定 NPO 法人ラ・ファミリエ　理事長 愛媛大学大学院医学系研究科 地域小児・周産期学講座 教授　檜垣 高史 先生 昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授　副島 賢和 先生 NPO 法人しぶたね 理事長　清田 悠代 様 ３名の講師をお招きし、香川県の病弱児支援についてご提言いただく。その後意見交流。 ③内容：事業内容等、周知連絡のための HP リニューアル ④内容：「show&tell」「スライド」「動画制作・導入」などプレゼンテーションの基礎を伝えるワークショップ 場所：マルタス（丸亀市市民交流活動センター） 対象：小・中・高校生

事業実施期日	①つながロボットの開発 　７月　　香川大学創造工学部　石原教授との打ち合わせ 　８月～　ロボット開発計画 　　　　　順次制作 　２月～　試作機１台完成 　　　　　動画・チラシ作成配布 ②香川県における病弱児支援の基盤づくりのシンポジウム開催 　４月　香川大学との協賛　取付 　　　　会場決定・調整 　　　　ゲスト講師依頼 　５月　チラシ・ポスター制作 　６月　チラシ・ポスター配布 　　　　広告等で情報を拡散 　７月～前日　諸準備 　８月２２日　当日 ③内容：事業内容等、周知連絡のための HP リニューアル 　７月～　リニューアルスタ-ト 　1 月～　完成 ④内容：「show&tell」「スライド」「動画制作・導入」などプレゼンテーションの基礎を伝えるワークショップ 　６月～　申込スタート 　7 月 25 日（日）第 1 回 　8 月　1 日（日）第 2 回 　8 月　7 日（土）第 3 回 　　その後コロナ感染症拡大にて延期 　12 月 5 日（日）第 2 クール第 1 回 　12 月 12 日（日）第 2 クール第 2 回 　12 月 19 日（日）第 2 クール第 3 回　　計６回実施
事業実施の効果	①今回の事業でつながロボット５台を所持することができた。 香川県においてこのロボットが活用できるようになることで、次年度以降病弱児とその保護者・きょうだい児が社会との交流機会を維持するサポートを続けることができるようになった。 ロボットを院内学級に常時配置したり、複数台が同一日に稼働できたりすることにより、使用したい日程が重なっても使うことができる。 合わせてチラシと動画が完成したことにより、次年度以降、病弱児に限らず広く県内の困難を抱える方々に新たにアピールできると考える。そして利用者が拡大し、コロナ禍において会いたい人に会うことのできる環境を提供することができる。 県下各方面で、ロボット活用を促進する動きのきっかけ作りができることは、大きな社会的効果であると考える。 （チラシ別添え）

（動画トップ）

②ロボットの運用をはじめ未来 ISSEY の行う事業には、医療機関・教育機関などの関係団体との協力がなくてはならない。医療機関・教育機関とのシンポジウム開催で新たな関係性を築き、病弱児の元で支援事業が活用されるよう広く働きかけた。小児科医であり小慢児童等自立支援の第一人者である檜垣先生、院内学級担任として第一人者の副島先生、きょうだい児支援をリードされる清田様から、未来 ISSEY の行う支援の必要性も示していただいた。
またオンライン開催を併用することで、全国より広く学生・一般からの参加があった。病弱児支援の必要性と方法論を、県内はもちろん、全国の関係者に伝えることができた。また今後全国の学生ボランティアが一つになり、病弱児支援の輪を広げるご提言もいただけたことは大きな成果である。
（チラシ・報告書　別添え）

	   行政や学校の連携促す 全員合格 チームでつか 室内ゲーム通じ 外国文化親しむ グラウンド・ゴルフ

③従来の HP に新たにネット販売やオンライン家庭教師のページを追加した。また寄付やボランティア参加全体を「チーム・グッドブラザー」と捉えて、閲覧した人たちが未来 ISSEY の行う事業により参加しやすい形となった。
また HP 上で伝わる法人イメージを、より前向きで明るいものに変更することができた。

（旧バージョン）

（新バージョン）

未来ISSEY
希望をもって治療ができる
香川県を一緒に作ろう
寄付をして
活動を支援する
子どもが病気になっても、子どもと周りの人たちが
希望を持って自分の力を取り戻せるように

未来ISSEY
未来ISSEYネットはこちら
寄付をして
活動を支援する

④「子どもを育てる」分野は、「子ども」は大きな病気を抱えることになるかもしれない存在と捉えると、当法人の支援対象者は子ども全員である、との考えによるものである。
今回ワークショップの参加者は３５名。
うち５名は療養児やきょうだい児も含まれていた。どちらかというと気持ちが内に向き、自分を伝えることが苦手な子どもたちであるが、発信力・表現力を学んでもらうことで自己表現する勇気ときっかけを作ることができたと考える。
一般参加者からは、「姿勢や話し方の基本から、情報の作成・編集、発表の仕方までトータルで学べる所が他にはない。とても良い企画だった。」と好評。
同時に案内に伺った中・高校・専門学校の先生方やマルタスのイベント情報等を見た人に対しては、未来 ISSEY の広報も行うことができた。
この講座の内容が非常によかったという情報が、参加者が通っている私立中・高等学校の団長先生にも伝わり、来年度以降、学校の中でのカリキュラムに導入されることが決定した。
今年度の企画が、来年度以降も県内の子どもたちの力を伸ばすものとして広く利用されることを望んでいる。
（チラシ別添え）

備考

備考	

（別紙２）

収　支　精　算　書

【収入】　（単位：円）

項　目	金　額	説　明
補助金交付金額	2,445,900	
自己資金	32,357	①＋②＋③＋④
①参加料収入	15,900	
②会費等	0	
③寄附金等	16,457	
④その他	0	
助成金等収入	0	①＋②＋③＋④
①補助金収入	0	
②委託金収入	0	
③その他	0	
④その他	0	
その他資金収入	0	
合　計	2,478,257	

【支出】

項　目	金　額	説　明（使途、精算根拠等）
①分身ロボット運用機の開発費	800,000	香川大学創造工学部委託費 5台分　人件費・材料費
①ロボット開発協働人件費	160,650	未来 ISSEY 事務局スタッフ 開発のための意見交換・試作機の運用・被験者のヒアリング等 @900/時間×時間
①ロボット開発協働交通費	36,000	香川大学創造工学部・香川大学医学部・四国こどもとおとなの医療センター等スタッフ派遣 @15/km×25 km×2回×　回
①ロボット活用マニュアル動画　作製委託費	330,000	ロボット活用のメリット・使い方についての動画委託費
①ロボット活用マニュアル動画　作製人件費	71,550	未来 ISSEY 事務局スタッフ 内容・動画シナリオ等の検討 @900/時×時間
①ロボット宣伝用　チラシ作製費	200,000	B5版両面２つ折り４ｐカラー 3000部 印刷デザイン費

①ロボット宣伝用チラシ作成人件費	67,050	未来 ISSEY 事務局スタッフ 掲載内容等の検討・原稿作製 @900/時間×時間
②シンポジウム オンライン配信費	200,000	オンライン配信委託費
②シンポジウム準備人件費	107,775	シンポジウム開催のための事前準備スタッフ @900/時間×時間
②シンポジウム準備交通費（香川大学幸町キャンパス打合せ）	23,000	打合せ・事前準備スタッフ @15/km×30 km×2 回×
③ＨＰ作製費 （リニューアル）	200,000	HP 委託費
④ワークショップ開催 講師人件費	164,425	当日講師 @1,500×２人×４時間×5 回 @1,000×１人×４時間×1 回 （第４回のみ） スタッフ補助員 @1,000×１人×４時間×１回 （最終回のみ） ワークショップ準備・報告・DVD 作成スタッフ
④ワークショップ講師交通費	9,220	@15/km×30 km×2 回×回
④ワークショップで使用 タブレット２台	100,000	@50,000×２台
④ワークショップ消耗品費	8,587	事務文具代
合　　計	2,478,257	

（注）交付決定を受けた事業の収支について記入してください。